

施設見学報告

日 時：1996年11月20日（水）
 目的地：ナカバヤシ（株）兵庫工場
 参加者：14名
 行程：9:00 大阪梅田出発
 11:45 夜久野到着
 昼食
 13:00 夜久野出発
 14:15 工場到着（兵庫県養父郡
 大屋町）
 概要説明後工場見学
 15:30 質疑応答
 16:00 工場出発
 20:00 大阪到着 解散

工場での見学は5-6人の班に分かれ、工場関係者説明のもと、雑誌の製本過程や古書修復の様子など時間をかけて見てまわった。他の図書館の製本などを見て、各々の製本を見直すきっかけになった。

また、質疑応答では、製本時間やセキュリティについてなど多彩な疑問がだされ、製本を依頼するにあたっての参考となった。

（文責：林 伴子）

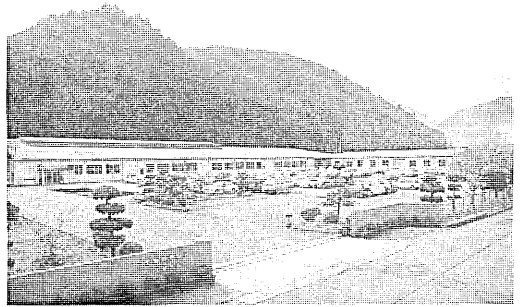


「製本工場を見学して」

兵庫県立尼崎病院 熊井亜由美

秋晴れの日、病図協の研修部の主催で兵庫県の北部にあるナカバヤシ（株）の製本工場へ見学に行ってきました。現地まではバスで4時間ほどかかりましたが、道中は山々の紅葉が真っ盛りで、普段部屋にこもって仕事をしている眼には眩しいくらいの美しさでした。

工場では数人ずつのグループに分かれ、責任者の方の一つ一つ丁寧に説明をしていただきながら見てまわりました。毎日のように触



▲ ナカバヤシ兵庫工場

っている製本雑誌ですが、できあがる過程などは全く知らなかったのも、とても興味を引かれ、時間が短く感じられるほどでした。

仕上がりまでの行程が細分化されている様子を見て、こんなにもたくさんの方々の手にかけて、やっと1冊の本ができあがるということに驚嘆してしまいました。

行きのバスの中で、全て手作業で行われていた頃のビデオを見せていただきましたが、現在は機械化されている部分も増えてきているようです。しかし、例えば修復や和綴じ、表装など、機械には任せられない作業も多くあり、職人と呼ぶのがふさわしい方もいらっしゃるのを知ると、このような技術はいつまでも受け継いでいってほしいものだと思います。

ここは日本最大の製本工場ということで、作業のさまざまな段階で、普段相互貸借でお世話になっている大学図書館などの名前を見つづけることができます。遠いところからも運ばれて来ていることに感心しながらできあがった本の背表紙を眺めていると、行ったこともないのに、まるでそれぞれの図書館を覗いているような感じがして楽しくなりました。

お邪魔した時が、ちょうど製本を頼んでいた時期だったのですが、このように預けている間に利用者から閲覧の希望があった場合は複写で応えてくれるということを知り、帰ってから早速利用させてもらいました。

思いもかけない小旅行となった、とても有意義な一日でした。